

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2018年4月28日発行
第1号
広島女学院中学高等学校

聖書の言葉

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」

フィリピの信徒への手紙 2章 13節

4月7日に中学校新入生 205名、9日に高等学校新入生 242名と留学生 3名を迎え、新年度が始まりました。中1・高1の真新しい制服姿は、新鮮で清々しさを感じます。上級生の姿は、一人ひとりの個性を表し、とても素敵です。総勢 1206名の生徒が、神様の愛に包まれ健やかに成長する一年となりますようお祈りいたします。

9日の始業礼拝で、生徒のみなさんに「志（こころざし）をもってほしい」とお願いいたしました。わたしたちは、周囲から受ける評価のように外からつくられた軸と、経験を通してその人固有の自己の成長を積み上げていく内なる軸をもっています。

「志」と似た言葉に「目標」があります。夢や希望を実現するために「目標」を立て、困難に挑んでいきます。そして、その結果に一喜一憂することがしばしばです。このように「目標」は外からつくられた軸を基準にします。一方「志」は、どのような外からの働きかけに対しても、あきらめたり、動揺したりすることなく、自分らしく生きていくために内なる軸を基準にする宝物です。

しかし、内なる軸を意識して動いている時間はとても短く、大抵の時間は外からつくられた軸の基準で物事を考え、発言し、行動していると思います。「志」をもつこと、そのことが難しいのかもしれませんが。

本校が大切にしている毎朝の礼拝の時間は、一人ひとりが内なる軸にたち戻る時間です。聖書のみ言葉を聴き、祈り・賛美をささげる。神様が愛していてくださることを感じ一日の始まりを迎える。その毎日は、とても恵まれたものです。その中で、生徒一人ひとりが内なる軸をしっかりと感じ、「志」をもってほしいと思います。

末筆となりましたが、今年度から中学高等学校の校長を務めます渡辺信一です。生徒たちの姿から感じたものをお伝えさせていただきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

(校長)



イースター特別礼拝

「イースター（復活祭）」は、クリスマスと
ならぶキリスト教の大切な記念日です。私た
ちの救いのために、自分を犠牲にして十字架
で死なれたイエス・キリストが “復活” し
たことをお祝します。太陰暦で定められた
ため年によって日程が変わり、今年のイース
ターは、4月1日（日）でした。女学院では
4月21日（土）に、広島大学総合科学部で
キリスト教を教えられている辻学先生を講
師にお迎えし、イースター特別礼拝を行いま
した。

中学生には、「イエスを失って悲しんでい
た女性たちのように、別れは自分の中の大切
な一部が失われる痛みを伴う。別れは小さな
“死”とも言える。しかし小学校の友達と別
れて女学院と出会ったように、古い自分が死
んでこそ、新しい自分が始まる。」というお
話をしてくださいました。

高校生には、「イエスの復活についての公
式記録には男性の名前しか出てこない。イエ
スを失った女性たちの痛みの経験は陰に追
いやられている。歴史“**history=男性の物語**”
は戦争の勝利や経済の繁栄を語るが、その陰
にある痛み“**her story=女性の物語**”は見え
にくい。歴史の陰で悲しむ人、苦しむ人の声
に耳を傾け、“**her story**”が“**history**”と同じ
ように評価される社会をつくることこそが、
ヒロシマにある女学院のミッション（使命）
ではないだろうか」と語られました。

（宗教教育委員会）

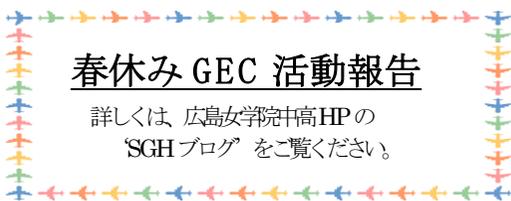
題を抱えています。生徒たちは、それらの課
題について調べ、現地でプレゼンを行いました。
現地の高校生との意見交換も、はじめは
うまく意思疎通ができず悩んだ生徒もいま
したが、何度も挑戦するうちに最後には大変
活発なものにすることができました。また、
女性省を訪問しました。対応して頂いた大臣
は、とてもパワフルで素敵な方で、政界でい
きいきと活躍する女性の姿に生徒たちは刺
激を受けたようでした。次に、トゥールスレ
ン博物館を見学しました。ポール・ポト政権下
における虐殺からの生還者の1人チュン・メ
イさんから直接体験を聞くことができました。
実際に入っていたという独房で当時の様
子を語られる姿は、生徒たちの心に深く印象
付けられたことと思います。チュンさんは、
真剣に話を聞く生徒たちをほめてくださ
いました。

現地に行き、想像していたのとは違う現実
をたくさん知りました。「想像していたより
も発展している」「女性が働きやすい環境づ
くりが進んでいる」は、生徒の感想です。カン
ボジアの課題について現地で考えること
を通して、日本の社会が抱える課題がたくさ
ん見つかった



研修になりました。連日30
度を超える暑
さでしたが、
充実した6日
間でした。

（引率教員）



春休み GEC 活動報告

詳しくは、広島女学院中高HPの
‘SGHブログ’をご覧ください。

I. 海外研修（SGH 事業）

① カンボジア研修

現高2の15名は、3月24日～29日の6
日間でカンボジア研修に行ってきました。ア
ンコールワットで知られるカンボジアです
が、内戦という負の歴史をもっており、その
ことによって、教育問題や女性問題などの課

② 韓国研修

3月20日から3月23日にかけて、現中
3生徒7名、現高2生徒6名、引率教員2名
がソウル市内で研修を行いました。この研修
は、平和をともに築き上げるパートナーとし
て韓国の若者と交流し、お互いの違いを乗り
越え、良好な日韓関係を築くためには何が必
要かについて考えることが目的です。昨年度
11月から事前学習を行い、日韓における
様々な問題について考え、韓国の学生に対し
て発表するために準備を進めました。

現地では、準備したプレゼンをもとに日韓

関係改善のために乗り越えなければならない各課題について、お互いの国の意見の現状を伝え、議論し、自分たちに何が出来るかを話し合いました。



韓国の高校生・大学生・先生方にとっても温かく迎えて頂き、充実した研修となりました。昨今、日韓関係に関する諸問題が報道されていますが、韓国の高校生・大学生から直接意見を聞き、交流する機会を持てたことは大変貴重な経験となりました。本研修に参加した



生徒達が、これからの社会で平和を作り上げるためのリーダーシップをとり、活躍してくれることを願っています。
(引率教員)

③ マウントユニオン大学研修

3月22日から4月3日まで、中3生5名・高1生5名でマウントユニオン大学(アメリカ・オハイオ州)研修に行ってきました。生徒たちは、シカゴの街並みや食べ物などの異文化体験、中でもビーフサンドイッチとオサラバン先生のお兄さんとの出会いが格別だったようです。シカゴを後にし、マウントユニオン大学に向かいました。同大学で女学院との間を長年つないでくださっているホール氏と交流しました。

大学での日々は、新しい友人との出会いや刺激的な授業に満ちていました。生徒たちはアメリカ文化や社会学の授業に参加しました。中でも、平和構築の授業で若い世代の役割を学びました。広島や女学院の歴史、現在の広島について大学生やアライアンスの町のみなさんにプレゼンテーションしました。生徒たちが一番がんばったのは、アライアンスのフードパーティーでボランティア活動をしたことです。町の皆さんは生徒たちのプレゼンテーションやボランティア活動を高

く評価してくださっていました。

ホームステイ先のホストファミリーのみなさんは、生徒たちをあたたかく迎え入れてくださり、忘れられない思い出を作ることができました。研修旅行を通じて、生徒たちはチームとして互いに支え合うことを学んでそれぞれに成長し、女学院・広島の代表としてすばらしい実践をしたと思います。



(引率教員)

④ Global Issues (GI)ハワイ研修

現高3 GI生の23名は、3月31日から4月5日にハワイ研修に行きました。

初日には、広島女学院同窓会ハワイ支部の先輩方との懇親会があり、温かい歓迎を受け、研修をスタートさせることができました。年代や住んでいる場所を超えて女学院スピリットは共通であることを実感することのできる充実した時間でした。

ハワイ日本文化センターやプランテーションビレッジでは、日系移民の歴史を学びました。開拓初期の過酷な生活や、敵性市民と見なされた第二次世界大戦中の苦悩など、あまり注目を浴びることのないハワイの側面について学びを深めました。

研修のハイライトは、パールハーバー訪問でした。戦艦ミズーリやアリゾナ記念館を見学するだけでなく、ボランティア活動「サダコ・プロジェクト」にも参加しました。このプロジェクトでは、昨年度末に中1から高2の全校生徒の皆さんに協力して折ってもらったピースメッセージ付きの折り鶴(皆さん、ご協力ありがとうございました!)を来訪者にプレゼ



ントし、また折り鶴のワークショップをしました。参加者の中には、「地元を持ち帰って友達にプレゼントしたい」と、折り鶴を袋にいっぱい詰めて持って帰ってくださる方もありました。

この他にも、砂本貞吉先生とゆかりの深いハリス教会や、毎年ピースフォーラムに参加してくださるプナホウ高校も訪問しました。

行く先々でたくさんの方にサポートをしていただき、実り多い研修旅行となりました。ありがとうございました。



(引率教員)

⑤ Critical Issues Forum (CIF)

今年のCIFは3月28日から4月1日にかけて、カリフォルニアのモントレーにおいて開催されました。今回のトピックは核兵器禁止条約であり、アメリカと日本から7校、ロシアから3校の計17校の参加を得て行われました。

参加した女学院生は広島出身生徒として、プレゼンテーションを通して被爆者の話に耳を傾け続けることの重要性を訴え、核兵器の危険性についての意識を高くもつよう米露の高校生に呼びかけました。



前アメリカ大統領オバマ氏の特別補佐官を務められた John Wolfsthal 氏による基調講演では、若者こそが軍縮に向けての活動を牽引するよう強調されました。Wolfsthal 氏は近年米国および世界中で広がりを見せている、銃規制を支持する若者の行動を例に、同じことが核軍縮においても可能であると熱弁されました。Wolfsthal 氏はまた、オバマ前大統領の広島訪問を実現させる上で重要な働きをされた方のおひとりです。CIFに向けての準備

は並々ならぬ過酷なものでしたが、それに報いるだけの素晴らしい機会になったことは間違いありません。

(引率教員)

III. 国内研修

① 山梨学院大学 iCLA 研修

高1GI生(19名)は、3月21日(水)~23日(金)の2泊3日で、山梨学院大学iCLA(リベラルアーツ学部)の研修に参加しました。この研修はiCLAの先生方のご協力により本校のために開発されたもので、社会学、物理学、国際政治、映画などを専門とする教授陣により、メインテーマである「戦争・核問題」についての講義が、さまざまな角度から英語で展開されました。このレベルの高い研修に向けて、高1のGI生は、膨大な課題資料を読み、研修に臨みました。



この研修の中心となる活動は国際交渉ゲームです。今回のテーマはイランの核武装についてでした。生徒一人ひとりに、利害関係のある国々の要人のポストが与えられ、各人が与えられたミッションを遂行するために、相手国の要人と交渉し、協力しあったり、腹を探りあったり、妥協点を見つけたり、あるいは、裏切ったり等々、実際の国際交渉を疑似体験しました。生徒たちは、食事中も、宿泊棟に帰ってからも、夜遅くまで作戦を練るなど、一生懸命取り組みました。このゲームを通して、生徒たちは最新の国際情勢についてより深く学び、また交渉の難しさを体験できたと思います。

学びの多い三日間でしたが、特に研修の最初に山梨学院大学の原口先生から、研修中に意識すべきことは、「Why?」「How?」



という問いに対して自分の意見を述べることであり」と教わり、最初は少し恥ずかしそうにしていた生徒たちも、しだいに活発に発言するようになり、意識が変わっていくのが分かりました。

今回の iCLA 研修で学んだことが、高1 GI 生が高2 となって後の活動に、きっと生かされていくことと思います。

最後に、きめ細やかなサポートをしてくださった山梨学院大学の先生方に感謝いたします。本当にありがとうございました。

(引率教員)

生徒会 春の公演

① 第34回高校音楽部演奏会

春の公演シリーズのトップとして、4月1日(日)にゲーンズホールに於いて、『第34回音楽部演奏会』を行いました。今回は星野先生の退官記念として、80名ものOGの方々とステージを共にすることができました。第1ステージは、谷川俊太郎作詞、松下耕作曲「静かな雨の夜に」。第2ステージは、部員が選んだポップスを中心に集め、衣装や振り付け、構成など工夫を凝らし楽しませてくれました。第3ステージは宗教作品。アカペラで、音楽部員らしい透明感のある声がホールいっぱいに響き渡りました。第4ステージはOGの皆さんと星野先生指揮の下、オーケストラを加え信長貴富作曲「ヴィヴァルディが見た日本の四季」、ヴィヴァルディ作曲「グローリア」を演奏しました。これからも伝統として受け継がれているものと新しく生み出されているものを紡ぎながら、部員と共に歩んでいきたいと思っています。

当日は、プログラムが足りないほどの多くの方にご来場いただき部員の励みになったこと、演奏会を行うにあたってアナウンスや照明、受付など生徒たちの協力を頂いたことに心から感謝します。ありがとうございました。

(高校音楽部顧問)

② 高校ダンス部 春の公演

4月10日(火)放課後、ゲーンズホールにて春の公演を行いました。例年、高2中心の発表となっていましたが、今年は高3が全員参加しました。それぞれが個をしっかりと出して踊ることができ、見ている側も心が動かされ、圧倒されるようなダンスを披露することができたように感じます。曲に合わせた、振り付け・照明・衣装も見事でした。高3はこれまで高2の文化祭で引退していたところを、春の公演まで続けてくれ、ダンス部の新たな流れをつくってくれました。後輩たちはこれを引き継ぎ、頑張っていくてくれることと思います。平日にもかかわらず、多くの方に来ていただいてありがとうございました。

(高校ダンス部顧問)



③ 中学演劇部 春の公演 「冬のキリギリスたちへ」

中学演劇部は、4月18日(水)ゲーンズホールにて、「冬のキリギリスたちへ」(ことばたらず 作)を上演しました。

今回のお話はサスペンスで、登場人物の不安な心理状態やお話のオチを観客の皆様にもうまく伝えなければいけませんでした。公演直前まで、どうやったら感情を言葉や体で表現できるか、お話の緊張感を伝えられるか、というところに気を使いながら練習をしました。練習がうまく進まない時もありましたが、春休みから公演までの期間の生徒たちの上達ぶりは目を見張るものがありました。スタッフも、人数が少ないながら一人ひとりが責任感をもち、公演直前まで誠実に準備にとりくみました。本番では、部員たちはいつも以上の力を発揮することができました。まだまだ納得がいかない部分もちろんありましたが、これからまた猛練習をして、文化祭公演でより良い舞台をお見せできるよう、部員・顧問一同がんばりたいと思います。お忙しい

中来てくださった方、アンケートを書いてくださった方、日ごろの練習・準備に協力してくださった方すべてにお礼を申し上げます。これからも応援よろしくをお願いいたします。

(中学演劇部顧問)

④ 第31回 吹奏楽部定期演奏会

4月15日(日)、雨も上がり青空の下、ゲーンホールにて吹奏楽部は第31回定期演奏会を開催いたしました。コンクールの課題曲も含め、第一部は全四曲を演奏。雄大な曲目も多く、伸びやかな音を奏でることができました。第二部では劇と共に真田丸やドラえもん等の有名曲を演奏するJoin メドレーや、生徒達の合唱、更には長谷川先生のパイプオルガン演奏もあり、ご来場の方々にも楽しんで頂けた様子でした。また、この度はOGの方々にも演奏に参加して頂き、広島女学院吹奏楽部の音楽を愛する思いは脈々と受け継がれていることを実感することもできたように思います。ご協力頂いた多くの方々、そして何よりもご来場して下さいました皆様、本当にありがとうございました。今後もどうぞ吹奏楽部への応援を宜しくお願い致します。

(吹奏楽部顧問)

中学校部活動

保護者対象説明会のお知らせ

今年度も中学校部活動で、運動部・毎日活動する部を中心として、各部部員の保護者を対象に、活動内容等に関する説明会を開催します。時間・場所等の詳細については、後日各部顧問から生徒を通して連絡があります(「未定」の部も同様です)。保護者の皆様はぜひご出席ください。

バレーボール部

予定していた日程が試合となりましたので、後日連絡します。

バスケットボール部

6月中に行いますが、大会結果により日程を決定します。

卓球部

6月23日(土) 14:00～
高校2階セミナー3教室

新体操部

6月21日(木) 16:00～
中学3-1教室

ソフトテニス部

5月下旬に行います。

剣道部

5月19日(土) 12:50 予定 (PTA 総会終了10分後から)
剣道場 (体育館1階、食堂横)
*中学1年生保護者対象で行います。

ソフトボール部

5月19日(土) 学級懇談会終了後
中学校2-5教室

マンドリン部

6月2日(土) 15:00～
中学校2階講義室
※高校生保護者の方も対象とします。

吹奏楽部

6月18日(土) 14時から中高合同で行います。
場所はまた後日連絡致します。

演劇部

6月22日(金) 16:20～
高校2階、セミナー2教室

放送部

6月23日(土)
(中学生徒会顧問)

保健室だより (1)

～健康診断結果の報告について 生活リズムをつくりましょう。～

健康診断が始まっています。6月7日(木)には、耳鼻科、眼科、歯科検診もあります。尿検査は3回予定されていますが、1回目の提出で異常が認められた場合、2回目再検査用の容器をお渡しいたしますので、必ず提出するようにしましょう。次の尿検査は、5月10日(木)です。朝10時までに、アイリスセンター1階の保健室前に準備している袋の中に各自で入れてください。異常があった場合は、保護者あてに手紙を出しますので、

早めに受診するようにしてください。

新学期は、何かと疲れやすいですが、早めに休養し、自分の体に向き合いながら、無理のない生活リズムをつくるようにしましょう。

(保健室)

心の健康 (1)

「あー疲れた…」という言葉をよく聞くこの頃です。中1生から高3生、保護者も先生も新学期という新しい環境に神経を使いながら生活してきて、1か月が経ちます。「ストレス」の多い日々でした。5月は環境に慣れてきて緊張が解け始めます。このような時に心と身体に疲れが入り交じって、いろいろな症状として出てきやすいのです。

生きていると「ストレス」は付き物です。ただ、ほどよいストレスは生活の励みになります。強すぎるストレスは心身の症状となりやすいのです。例えば、イライラしたり、感情的に怒りっぽくなったり、ブルーな気分になったり、忘れることが多くなったりしがちです。食欲不振・不眠・頭痛・胃痛・肩こりなどの体調不良にもなります。

まず、頭と身体の両方を使うように心がけてみましょう。緊張の後にはリラックスを、努力の後には休息を上手に取り入れて、5月の新緑の美しさを心に映してみましよう。

(カウンセラー)

生徒の活躍

《中学》

◇中学ソフトテニス部

*広島市中学校ソフトテニス選手権大会
(安芸・中ブロック大会)

個人 : S・A (3-5)
K・A (3-4) ペア
O・M (2-2)
T・Y (3-1) ペア

⇒市大会への出場権獲得

◇中学バスケットボール部

*第19回ひろしまカップ
第3位

《高校》

◇高校新体操部

*広島地区高等学校新体操春季大会

団体 : Aチーム 2位
Bチーム 3位
個人 : 一部総合
Y・M (3-D) 8位
T・H (2-A) 8位
二部総合
W・S (3-E) 1位
二部種目別フープ
T・A (2-C) 2位

◇高校バスケットボール部

*第62回中国高等学校バスケットボール
選手権大会 広島地区予選会

1回戦 女学院 66-44 なぎさ
2回戦 女学院 57-52 五日市
3回戦 女学院 49-112 修大附属鈴峯
県大会出場ブロック決定戦
女学院 75-70 基町

⇒県大会出場権獲得

*第62回中国高等学校バスケットボール
選手権大会 広島県大会

1回戦 女学院 32-91 銀河学院

◇個人の活躍

*全国珠算教育連盟主催

「広島県選抜珠算競技大会」選手権の部
N・A (2-E)
個人総合競技 3位
フラッシュ暗算競技 2位
読上算競技 2位

*2018 ひろしまフラワーフェスティバル
「ふれあいの広場」ポスター
K・M (1-C) 特選



教職員の動向

◇今年度の新任の先生は次の方々です。

《教員》

越智 友美 (国語)

俵 倫子 (家庭)

《講師》

東 歩 (聖書)

沖田 さやか (国語)

府木 順子 (数学)

星野 晴夫 (音楽)

木俣 友里 (美術)

皆川 幸子 (保体)

中川 美代子 (家庭)

大牛 英則 (英語)

グレイ サイモン (英語)

《事務職員》

谷本 優子

5月行事予定表

1	火	1～3限 土曜授業 7限 (中) 行進練習
2	水	木曜授業
3	木	憲法記念日
4	金	みどりの日
5	土	こどもの日
6	日	高3河合マ-7模試
7	月	中3内科検診(5,6限呼び出し)
8	火	4～6限 土曜授業 7限 (高) 行進練習
9	水	中3内科検診(5,6限呼び出し)
10	木	高1内科検診(5～7限呼び出し)
11	金	40分授業 6限まで 体育大会準備
12	土	体育大会(雨天の場合は休日)
13	日	体育大会予備日
14	月	振替休日(体育大会) 体育大会中止の場合は月曜授業
15	火	月曜授業
16	木	地区区顔合わせ会(昼休み)
17	木	高1内科検診(5～7限呼び出し)
18	金	
19	土	参観日 PTA総会 (午後)学級懇談会 講演会
20	日	
21	月	
22	火	中間テスト(高1・2・3) 高1各種テスト
23	水	(中1・2・3) 1限8:55～ 15分休憩
24	木	1限8:55～ 15分休憩
25	金	1限8:55～ 15分休憩 中1各種テスト
26	土	
27	日	高3駿育全国模試(希望者)
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	高2内科検診(5～7限呼び出し)

※6/22 (金) 参観日

今月の聖句

「イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシア(救い主)は苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』」

(ルカによる福音書 24 章 45～46 節)

イエス・キリストは歴史上の實在の人物ですが、聖書の中には現実にはあり得ない話がたくさん出てきます。その最たるものが「復活」です。しかし聖書をよく読むと、弟子たちの心の目が開いた時、復活のイエス様に出会えたと書いてあります。つまり復活したイエス様は、心の目でしか見えない存在だったということです。

イエス様を失った弟子たちのように、私たちもつらいことやしんどいことがあると、いろんなことが見えなくなってしまう。でも、心の目を開けば、きっとそこから抜け出せる道を神様は備えて下さっている。そんな希望をイースターの物語は教えてくれます。

(4月20日 中学放送礼拝より聖書科T. M)